

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-1 道路網の整備と維持管理

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 漁港漁場整備課長 角 敬 電話番号 0852-22-5316

事務事業の名称	広域ネットワークの形成に資する漁港臨港道路整備事業	
目的	(1) 対象	漁港を利用する漁業従事者、漁村住民
	(2) 意図	漁業活動が安全で効率的に行えるようにするとともに、漁村に生活する住民の利便性を高める。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・流通拠点漁港への水産物集積や、消費地への水産物出荷を安全かつ確実にできるよう漁港臨港道路や漁港関連道を整備。 ・漁村への生活道路としての役割も大きく、漁村生活の利便性を向上させるために、漁港臨港道路や漁港関連道を整備。 上記整備は、農山漁村地域整備交付金（国庫交付金）を活用して行う。	

2. 成果参考指標

(1)	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位

成果参考指標	指標名	臨港道路・関連道の整備率	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義	今年度までの整備延長／計画総延長	50.10	55.80	66.40	70.30	80.90	%
	達成率		99.30	99.40	100.00		%	
	式・定義							

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	117,359	205,000
うち一般財源(千円)	5,785	10,500

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・H24年度に新規着手した和江漁港関連道整備事業の進捗状況は、H26年度末時点で用地買収33%、建物移転補償66%となっており、着実に進めている。
 ・事業完了は、H29年度を目指している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・整備途中の段階ではあるが、一部の区間において供用を開始しており、安全で効率的な漁業活動に寄与している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・本事業は、農山漁村地域整備交付金（国庫交付金）を活用して事業を進めているが、要望額の確保が難しい状況
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・国の農山漁村地域整備交付金予算が前年度を下回る予算額となっている。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・H26年度までは用地買収、建物移転補償が主な事業内容となっているが、今後、工事が本格化するため、計画どおりに進捗していくための必要額を確保することが課題。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・国に対して必要な予算の確保を求める。
 ・工事コスト削減に努め、本事業の進捗を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）